

試験報告書

依頼者 ユニトライク株式会社

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 G-MIST (20ppm)

表 題 抗菌力試験

2019 年 09 月 06 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

抗菌力試験

1 依頼者

ユニトライク株式会社

2 検体

G-MIST (20ppm)

3 試験概要

検体に試験菌液を接種後(以下「試験液」という。), 所定時間後に試験液中の生菌数を測定した。また, あらかじめ予備試験(中和条件の確認)を行い, 検体の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

4 試験結果

結果を表-1, 試験条件を表-2に示した。また, 培養後の生菌数測定平板を写真-1~5に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験(表-2 中和条件を参照)により確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数 (/mL)			
		開始時	15秒後	1分後	2分後
ジンジバリス菌	検 体	—	<100	<100	<100
	対 照	2.0×10^6	—	—	1.2×10^6

保存温度：室温

対照：生理食塩水

<100：検出せず

表-2 試験条件

試験菌液	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">試験菌</td> <td><i>Porphyromonas gingivalis</i> JCM 8525 (ジンジバリス菌)</td> </tr> <tr> <td>前培養</td> <td>5 %馬脱纖維血液加Brucella Agar (BBL), 35 °C±1 °C, 4~7日間嫌気培養</td> </tr> <tr> <td>菌液調製溶液</td> <td>生理食塩水</td> </tr> <tr> <td>菌数</td> <td>10⁸~10⁹/mL</td> </tr> </table>	試験菌	<i>Porphyromonas gingivalis</i> JCM 8525 (ジンジバリス菌)	前培養	5 %馬脱纖維血液加Brucella Agar (BBL), 35 °C±1 °C, 4~7日間嫌気培養	菌液調製溶液	生理食塩水	菌数	10 ⁸ ~10 ⁹ /mL
試験菌	<i>Porphyromonas gingivalis</i> JCM 8525 (ジンジバリス菌)								
前培養	5 %馬脱纖維血液加Brucella Agar (BBL), 35 °C±1 °C, 4~7日間嫌気培養								
菌液調製溶液	生理食塩水								
菌数	10 ⁸ ~10 ⁹ /mL								
試験液	検体10 mLに試験菌液0.1 mLを接種								
保存条件	15秒, 1分, 2分(室温)								
対照	生理食塩水								
中和条件	SCDLP培地[日本製薬株式会社]で10倍希釈								
生菌数測定	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 70%;">5 %馬脱纖維血液加Brucella Agar, 平板塗抹培養法</td> <td style="width: 30%;">35 °C±1 °C, 5~7日間嫌気培養</td> </tr> </table>	5 %馬脱纖維血液加Brucella Agar, 平板塗抹培養法	35 °C±1 °C, 5~7日間嫌気培養						
5 %馬脱纖維血液加Brucella Agar, 平板塗抹培養法	35 °C±1 °C, 5~7日間嫌気培養								



写真-1 ジンジバリス菌 対照 開始時
(試験液 0.01 mL)

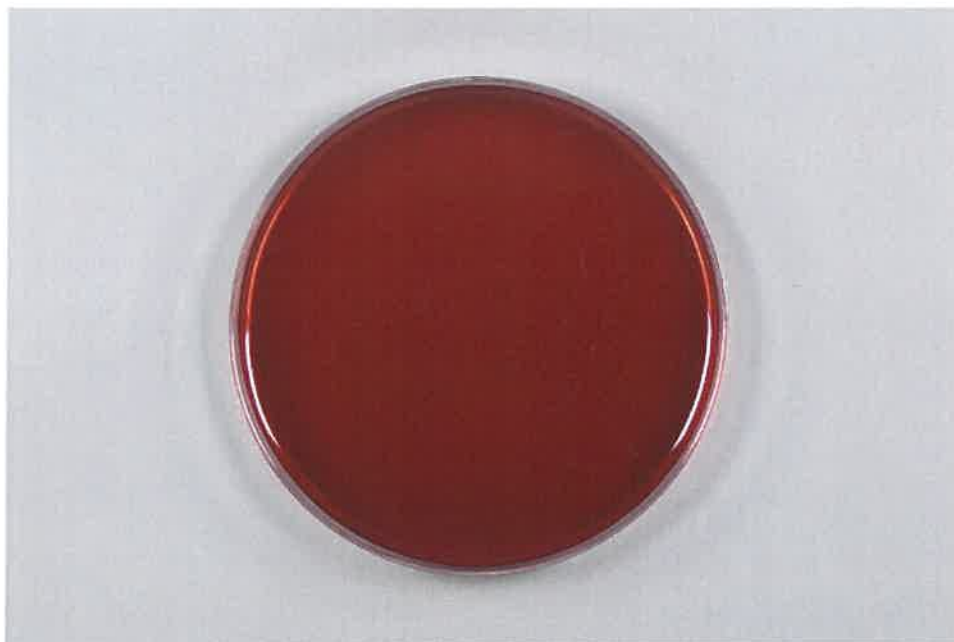


写真-2 ジンジバリス菌 検体 15秒後
(試験液 0.01 mL)

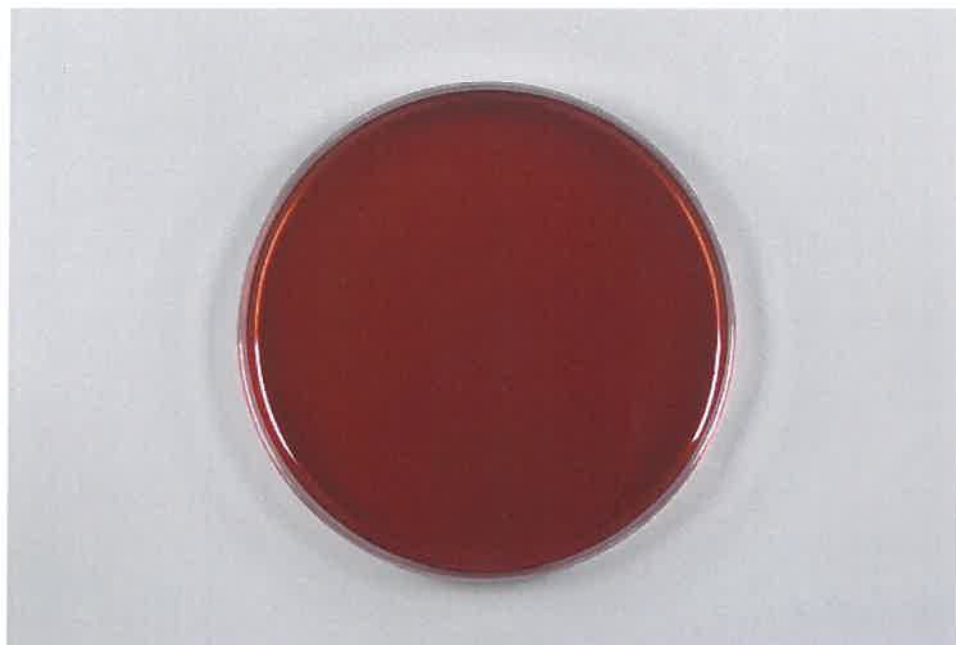


写真-3 ジンジバリス菌 検体 1分後
(試験液 0.01 mL)



写真-4 ジンジバリス菌 検体 2分後
(試験液 0.01 mL)



写真-5 ジンジバリス菌 対照 2分後
(試験液 0.01 mL)

以 上